

【 再評価結果の概要 】

○風力発電の出力変動分析を行うとともに、風力発電系統連系対策小委員会[※]で整理された風力発電連系可能量算定の手順を考慮して短周期変動と長周期変動に関する検討を実施しました。

- ・出力変動分析では、10万kWの追加連系により風力発電所の地理的な分散が進み、主に比較的短い時間領域において平滑化効果による変動率の減少が認められました。
- ・短周期変動と長周期変動に関する検討では、風力発電の実績データにもとづき、風力発電の出力変動に対して調整力が不足する風力発電連系量をシミュレーションにより算出し、連系可能量の評価を行いました。

○以上の結果、平滑化効果により変動率が減少したことから、連系可能量の再評価結果は次表に示すとおりとなりました。

連系可能量再評価結果

| | 検討内容 | 連系可能量 |
|-------|------------------------------|-------|
| 短周期変動 | 比較的短い時間領域での出力変動が周波数調整面に与える影響 | 41万kW |
| 長周期変動 | 比較的長い時間領域での出力変動が需給調整面に与える影響 | 31万kW |

○したがって、より厳しい値となる長周期変動に関する検討結果に基づき、連系可能量は31万kWとなりました。

※ 風力発電系統連系対策小委員会：

2004年4月に、経済産業省総合資源エネルギー調査会新エネルギー部会に設置された小委員会。新エネルギー導入目標及びRPS法の利用目標を踏まえた風力発電の導入拡大に向け必要な系統連系対策について検討を行うことが目的。